

俵屋宗達画 襖絵
重要文化財

本堂で最も注目すべき作品は、12 枚の襖に俵屋宗達（1570 年頃～1640 年）が描いた絵画作品（襖絵）である。宗達は琳派の創始者の一人であり、絢爛豪華でダイナミックな作風で知られている。

この襖絵には、輝く金箔地の背景に松の木と岩が描かれており、いくつかの点で特筆すべき作品である。まず、松の木はディテールまで細かく描かれており、細い枝や松葉の一本一本まではっきりと描写されている。次に、松の木と岩が交互にひとつずつ配置されており、作品全体に大きなリズムが生み出されている。そして、部屋に入ってから反時計回りの順番で見えていくと、松の木は次第に若い木から老いた木へと変化していき、最後の松は節くれ立って、まだらな苔に覆われている。これは、日本においては松の木が伝統的に長寿と結び付けられていたことを反映しているようである。

本堂の本尊は、無量光仏とも呼ばれる阿弥陀如来像である。その制作年や来歴は明らかではない。狩野山楽（1559～1635 年）が描いた獅子図が仏壇と並んで飾られている。